

2022年(令和4年)1月28日(金曜日)

小学生の子供が持ち帰った工作の宿題。実際の悪さを黙って見ていられず、つい手を出して結局ほとんどを親がつくってしまった——そんな経験はありませんか。

私たちが物事を成し遂げようとするとき、すべてが思い通りに進むわけではなく、事の大小にかかわらず失敗や挫折(せつ)を経験するものです。それは子供の場合も同様です。

しかし、幼い子供が何かを試みようとするとき、親は「失敗

♡ 失敗から何を学ぶか

道徳で人と社会を幸せに

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

「道徳」教科化—ヒントの泉

させたくない」という思いから、必要以上に手を出しすぎる場合があります。これもわが子がかわいいと思う親心からなのでしょうが、場合によっては、子供がみずから成長しようとする芽を摘んでしまうことにもなりかねません。

失敗も、チャレンジしているからこそです。結果ではなく、その失敗から何を学ぶかを大切にしていきたいものです。

2022年(令和4年)2月11日(金曜日)

平成十九年に「日本人の好きな言葉」について調べたところ、第一位は「ありがとう」で、六七パーセントの人が選んだといいます(NHK放送文化研究所調査)。

多くの人が「ありがとう」の言葉を欲する背景には、私たちの日常の中に、それだけ感謝の言葉を交わす機会が少なくなっている状況があるのかもしれない。効率を求められ、時間に追われがちな現代の生活では、言葉の一つ一つに心を込めることがつい疎(おろそ)かになり、気

♡ 「ありがとう」は人間関係の潤滑油

道徳で人と社会を幸せに

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

「道徳」教科化—ヒントの泉

持ちを十分に伝える機会が少なくなっているという事情もあるようです。

心からの感謝を伝えるとき、相手の喜びが引き出されるだけでなく、自分自身の心の幸福も増していきます。人に感謝し、人から感謝される。今、そのような温かい人間関係を紡ぎつむぎ直していく必要性が問われているのではないのでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から7日間限定で10名様にプレゼント!  
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1  
E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

2022年(令和4年)2月18日(金曜日)

ある幼稚園で、運動会に向けてクラスでリレーの練習をしていたときの事です。いつごろからか、一人の女の子が次のランナーへバトンを渡すときに「頑張つてね」と声をかけるようになってきました。すると、それはいつの間にかクラス全体へと広がって、皆が次の人に「頑張つてね」と言うようになったのです。このクラスには、運動会のリレーの競争で負けた後も、「誰々のせいで負けた」と言う子や泣きじゃくる子が出なかったということです。

♡ 次の人への「頑張つてね!」

道徳で人と社会を幸せに

忙しい毎日の中で、いつしか周囲が見えなくなっていた、という経験はないでしょうか。そんなときこそ、意識して周りの人に心を配り、人のためにできることを探してみましよう。例えば「次に使う人のこと」を思つて、職場の共有資料を整理しておくなど……。そうした心がけが、自分の人生を豊かにしていくのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から7日間限定で10名様にプレゼント!  
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1  
E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

2022年(令和4年)3月4日(金曜日)

♡ 「ありがとう」は元気の源  
 つらい仕事の最中にかげられた「ご苦労さま」や「ありがとう」のひとことで、疲れが吹き飛び、元気が湧(わ)いてきた—そんな経験はないでしょうか。  
 「ありがとう」という言葉は、元気の源といえそうです。逆に元気を失わせる言葉とは、どんなものでしょうか。「忙しい」「疲れた」—どちらもつい使ってしまう言葉ですが、それを言う自分の心の中には「周りの誰よりも仕事をしている」という高慢な心、**“ごっつして自分だけが**

2022年(令和4年)3月11日(金曜日)

♡ 時間のプレゼント  
 狭い道路や出入口などで、皆が「われ先に」と争って進もうとすれば、ごっつなるでしょうか。きっと、自分も相手も周囲の人たちも、皆が不利益をこつむる結果となるでしょう。反対に「お先にどうぞ」と譲り合えば、人も車もスムーズに流れていくのです。世の中の人が皆、こうしたことを少しでも心がければ、渋滞などの現象の多くは解消され、より暮らしやすい社会が実現するのではないのでしょうか。  
 「お先にどうぞ」と譲ること

2022年(令和4年)3月18日(金曜日)

♡ 根っこにつながって生きる  
 私たちは、親や祖先から単に生命だけを受け継いできたものではありません。私たちも、私たちの両親も、皆それぞれの親から「幸せな人生を送ってほしい」と祈られてきたのです。  
 樹木は根がなければ育ちません。根が太ければ、幹も太くたくましく育ちます。そうなれば、枝葉が広がり、美しい花が咲き、将来への希望となる実をつけるでしょう。この自然の摂

道徳で人と社会を幸せに

変な思いをしなければならぬのか」という自己憐憫(じこれんびん)の心、「他人によく思われたい」という虚栄心などが隠れているのかもしれない。  
 何気なく使った言葉でも、自分のもとより周囲にも大きな影響を与えます。日々積極的(きふせき)に肯定的(きふてき)な言葉を使い、否定的(ひてき)な言葉や不愉快(ふげき)な言葉はなるべく使わないだけでも、家庭や学校、そして職場の雰囲気は、どんなに明るくなるでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」366日

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1  
 E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

道徳で人と社会を幸せに

は、自分の時間をほんの少しだけ犠牲にして、相手にプレゼントすることです。どんなに小さなことであっても、そうした実践を続けていけば、知らず知らずの間に、自分自身の周りに笑顔が増えていくでしょう。  
 その笑顔を目にしたとき、きっと、自分自身が「いけばん大きな「報酬」をもらっていることに気づくはずですよ。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」366日

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1  
 E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

道徳で人と社会を幸せに

理は、私たち人間にもいえることです。  
 親祖先是私たちの「根っこ」であり、私たちをしっかりと支えてくれる存在です。その親祖先にしっかりとつながり、「いのち」の大切さに気づき、親孝行の心を育てることで、私たちの生きる力はいっそう引き出されてくるのではないのでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」366日

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1  
 E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

2022年(令和4年)4月1日(金曜日)

今日から一冊のノートをつくらせてみましょう。表紙には「心のノート」と書きます。  
このノートには、自分がその日に行った「よい行い」を、毎日記録していきます。一日に一つだけでも構いませんし、たくさん書いても構いません。「玄関の靴をそろえた」「倒れていた自転車を直した」「バスを降りるとき、運転手さんにお礼を言った」など、小さなことでも記録してみるのです。困っている人を見かけたら、ためらわずに

♡ 自分の「心のノート」をつくらう

道徳で人と社会を幸せに

手を差し伸べましょう。「よい行い」をするには勇気が必要ですが、勇気を出して積み重ねていけば、一人ひとりの人生はすばらしいものになります。そして一人ひとりの「よい行い」が、世の中をよりよくしていく力になるのです。  
「心のノート」を書き続けていくことによって、きっと「新しい自分」を発見できることできますよ。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる』366頁

掲載日から7日間限定で10名様にプレゼント!  
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1  
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2022年(令和4年)4月8日(金曜日)

♡ 「米一粒」でも積み重ねると

儒学者・新井白石(あらいはくせき 一六五七〜一七三五)が少年のころのお話です。白石のお父さんは米櫃(こめびつ)の中の米を一粒取ると、白石に「どこが減ったか、よく見るように」と言いました。しかし、減ったことさえ分かりません。そして、また一粒取りません。取っても取っても、米は減らないようです。そのとき、お父さんは言いました。「それでもこれを一年ぐらい続けると、やはり米は減ったと分かるだろう。勉強も一日ぐらいさぼってもどうなるも

道徳で人と社会を幸せに

のでもないが、ずっと続けていると、ある日ふと、何か自分がだめになったな、と気づくものだ」と(参考『大村はま著』心のパン屋さん 筑摩書房)。  
新年度を迎え、何か新しいことにチャレンジしたいと考える人も多いでしょう。一つのことをやり遂げるには、何事も毎日少しずつ、努力を積み重ねていくことが大切です。それぞれの目標に向かって、第一歩を踏み出してみませんか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる』366頁

掲載日から7日間限定で10名様にプレゼント!  
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1  
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2022年(令和4年)4月15日(金曜日)

♡ 「違い」を受け入れる

進学・就職・結婚・引越など環境が変われば、さまざまな出会いがあります。これまでの自分の価値観とは、かけ離れた考え方や生活習慣を持つ人と、日常を共にすることもあつてしょう。

こうした考え方や習慣の「違い」を乗り越えるためには、まず思いきって、相手と自分との「違い」を「違い」としてそのまま受け入れ、これを相手の個性として認めることです。それができたときにはじめて、相手を

道徳で人と社会を幸せに

本当に理解することができ、さらには相手を尊重し、相手から何かを学び取るうとする気持ちも生まれてくるのではないでしょう。

日々の暮らしの中で新しく出会う人々と、お互いに敬愛し合い、学び合えるような、すばらしい人間関係を築いていきましょう。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉』366頁

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1  
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2022年(令和4年)4月21日(金曜日)

♡ 未来の子供たちへ

Yさん(七十二歳)は、少年時代におじいさんに連れられて山へ植林に出かけたときの思い出を、こう振り返ります——祖父は決まって言った。「今、植えている木は誰のために植えているのか分かるか? 俺のためではない。父さんのためでもない。みんなお前のためなんだ。三十年経たつて、お前が大きくなつたら、切つて売れば良い。切つたらその後、必ずまた植えておくことだ。そうすれば、またお前の孫の時代には役立ってくれる。

道徳で人と社会を幸せに

家を守っていくとはな、そういうことなんだ——。きつとおじいさん自身も、両親や祖父母からそのように教えられてきたのではないのでしょうか。

先人たちは皆、自分だけが無事に過ごせればよいというのではなく、遠い未来の子孫たちの幸せを見つめて自分の仕事や生き方を考えてきたのでしょう。そうした思いのつながりを、大切に受け継ぎたいものです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉』366頁

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1  
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155